

平成29年度 第2回小山町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成29年12月13日(水) 午後3時00分開会
午後4時10分閉会
- 2 開催場所 小山町役場 4階会議室
- 3 出席委員 込山正秀町長、天野文子教育長、稲恵子教育委員、米山芳子教育委員、相原正和教育委員、湯山伸彦教育委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席した事務局職員等
湯山博一企画総務部長、池谷精市経済建設部長、岩田芳和危機管理監、小野一彦住民福祉部長、長田忠典教育次長、遠藤正樹経済建設部長代理、渡邊晃こども育成課専門監、小野正彦生涯学習課長、後藤喜昭町長戦略課長、武藤浩こども育成課長補佐、渡辺徹町長戦略課班長
- 6 傍聴人の人数 0人
- 7 報道機関の人数 2人
- 8 会議次第
 - 1 町長あいさつ
 - 2 教育長あいさつ
 - 3 会議事項
 - (1) 待機児童の解消について
 - (2) 小山町の英語教育について
 - 4 その他
- 9 会 議
 - 1 町長あいさつ
本日の会議事項は、「待機児童の解消について」と「小山町の英語教育について」の2点である。
まず1点目について、本年度、小山町で初めて待機児童が生じた。さらに、年度中途の入園希望者もいれると、4月当初を上回る数の待機児童が生じている。
本年度第1回目の総合教育会議でも議論したが、待機児童対策は喫緊の課題であるので、有意義な実効性のある議論をしたい。

2点目の「小山町の英語教育について」は、新学習指導要領により、小学校中学年で「外国語活動」が、高学年で「外国語科」が導入される。小山町では「ALT」の増員や、中学生の英検受験料の補助など英語には力を入れているが、今後の方向性を議論したい。

2 教育長あいさつ

静岡県の出している「人づくり百年の計」では、徳のある人を育てるとされており、様々な施策の基となっている。

道徳無き経済は罪悪である。経済無き道徳は寝言であると二宮尊徳が言ったが、人を育てることと経済を豊かにしていくことは、相まってやらなければならない。人づくりと町の施策を結びつけるため、総合教育会議で議論しながら良い方向に進んでいきたい。小山のこども達が生き活きと学ぶために、また町が生き活きと活動できるように協議をお願いしたい。

3 会議事項 議事進行は、座長である町長にお願いする。

(1) 待機児童の解消について

座長（町長）：あいさつでも申し上げたが、小山町において、本年度初めて待機児童が生じることとなった。さらに年度途中の入園希望者などにより、その数は増えていると聞いている。

そこで、初めに、待機児童の状況、さらに、これまでの対応策などについて、教育委員会事務局から状況を伺いたい。

長田教育次長：「総合教育会議資料」◎待機児童解消について に基づき説明を行った。

座長（町長）：ただいま報告のありました、待機児童やその対応状況などについて、委員の皆様から意見を伺いたい。

米 山 委 員：このように待機児童が増加した要因は何か伺いたい。

稲 委 員：4月に待機となった子どもはその後どうなったか伺いたい。

相 原 委 員：3～5歳児は待機児童がいないようなので、先生も足りていると思う。0～2歳児は今まで家庭での保育が主になっていたが、働く母親が増えたことから各園の定員が現状と合わなくなっていると思う。施設の不足もあるが、保育士不足が大きな課題と思われるので、早急に対応する必要があると考える。

湯 山 委 員：保育士の確保について、明確な方法を見極める必要がある。

保育士免許を持っている人は多いと聞くが、何らかの事情により働いていない状況だと思う。免許を持っているが働いていない人を把握し、そのような人たちに個々に話を聞き、どのような勤務体系なら働けるかなど、個々に交渉する必要があると思う。また、将来的なことを考えると、短大や大学の担当者とのルートを作り、教育実習に来てもらったり、就職する際に力を貸してもらうなどができればよいと思う。また、高校生の保育所等でのボランティア活動や、中学生の家庭科での保育実習なども有効だと思う。現在の状況をどうするかに加え、1・2年先から数年先を見越して保育士を養成する仕組みを考える必要があると思う。

座長（町長）：年度の途中で何人か入園希望があり、この対応は大変だったと思うが、臨時の保育士を何人か途中で採用するなど、がんばってくれた。この後、話があると思うが、来年に向けて色々検討しているので、その内容について御意見を伺いたい。

教 育 長：保育料の第3子無料化と第2子の半額を開始する時に、このような状況が予知できればよかったと思う。0～2歳児の増加が予想できなかったことが誤算になった。今後は、中途採用や、保育士の時給を上げるなどの努力をして待機児童の解消を図っていきたい。

座長（町長）：ただいま、現在の待機児童の状況や、その対応につきましてご意見をいただいた。

待機児童の状況は大変深刻であると思います。今後、実効性のある対策を考えていかなければなりません。教育委員会事務局から今後の対策について説明して下さい。

長田教育次長：今年度は臨時保育士を6名採用した。その内フルタイムは2名です。しかし、今まで働いていた臨時保育士のうち4名が出産や家庭の都合で退職したため、実質は2名の増となっている。募集については、湯山委員のご意見にもあったように、職員と臨時職員約110名全てに、知り合いに声をかけてもらいたいと呼びかけたが、中々確保できなかった。今後の待機児童の対応については、教育長や町長の話にもあったが、本年12月から45歳までの経験者の採用枠を設けて募集している。即戦力が確保できるよう、今年度から正規職員の採用については実施している。

前回の総合教育会議でも話をしたが、教育委員会では地区ごとのこども園化を目指しています。既にある北郷・足柄を除く成美・明倫・須走地区については、現在の幼稚園と保育園を統合する形で子ども園化したいと考えている。こども園化を進める中で、今後の入園児数を見込みながら、待機児童が出ないように定数や施設規模を検討し、整備を進めていきたいと考えている。

臨時保育士の待遇については、資料（◎臨時保育士の賃金改正等による待遇改善）を基に説明する。

平成29年4月からの改善のうち、有給休暇日数については、昨年度までの勤務年数に応じた日数から、勤務年数にかかわらず一律6ヵ月あたり10日に見直しをした。昇給については、昨年度までの勤務年数6年目以降の昇給無しから7年目以降も毎年昇給するように見直しをした。また、担任手当を明確化し、給与に加算して支給している。

さらに、本年10月からパート職員の時給制を取り入れている。特別手当分を時給に換算して1,260円とした。

このような待遇改善を近隣市町も含めPRしていきたい。

座長（町長）：ただいま、事務局から現在の待機児童の状況や対応策について説明があった。ただいまの説明について、皆様から御意見等を伺いたい。

相原委員：こども園へ再編成することで、待機児童の解消は可能か。資料を見ると年度途中で入る子どもが増えている。年度途中でこどもを入園させて、働きたいという母親も増えると思うので、入園できる体制を整えてもらいたい。

湯山委員：長く臨時職員として勤務している人が、正規職員を希望することはないか。また、こども園化により待機児童が解決できるのか。解決できる場合でもそれまでの期間は、どのように対応するのか伺いたい。

稲委員：こども園化することで待機児童が解消できるように、先を見据えて定数を設定してもらいたい。

米山委員：乳幼児期はこども達の育ちが大切だと思う。核家族化による不安や、地域との関わり合いが無くなっていく中で、こどもが小さいうちから大勢の中で色々な体験ができるようにしてもらいたい。そのためにも保育士の増員をお願いし

たい。

座長（町長）：保育士の募集については、他市町と同じ時期に実施していると思うが、先や後に実施するなどの工夫が必要だと思う。また、募集の営業活動について、例えば小田原の短大に向いて就職担当の先生にお願いして伝えてもらうことや、小山町の保育士募集の説明会を行うなど、努力の仕方があると思う。さらに、電車の中刷りに募集広告を出すなどの方法もある。

もう1点、湯船原地区で現在計画している新たなこども園が早ければ平成32年に開園するスケジュールで進んでいる。待機児童の問題は、園を増やさなければ解決しないと思う。民間からの話もあることから、来年度に教育委員会で、民設民営でやってもらうか、公設民営でやるのか等も含め方針を決めてもらいたい。

教 育 長：町長が言われたように、保育士の確保には最大限努力して色々な仕組みを作ってやっているが、魅力ある仕事であることを伝えていきたい。米山委員の話にあったが、家庭や地域の教育力が不足している中で、保育園やこども園は重要な役割を持っている。こどもは3歳までに愛着心や言語力、生きていくうえの知恵などを育てていかなければいけないと思う。小山の幼児教育はすばらしいという点を宣伝しながら、湯船原の施設や早期のこども園を魅力あるものにしていきたい。

長田教育次長：4月の待機児童のその後の推移についてです。4月に15人の待機児童がいたが、きたごうこども園の9人のうち1人はいきど保育園に入園、菜の花こども園の5人のうち2人は菜の花こども園に入園、1人は入園を取下げ、すがぬま保育園の1人はすがぬま保育園に入園、この結果5人が解消できたので、現在の待機児童数は10人となっている。

湯山委員の意見で、長い臨時職員が正規職員を希望していないかについては、教育委員会から声をかけた人もいたが、採用試験の40歳という年齢制限や学力試験への不安があるため、採用試験の受験を遠慮する方がいた。そのため、今年度から年齢制限を45歳まで引き上げ、試験についても経験を優遇できるような内容に改善しました。現在、園長から臨時職員に声かけをしています。

相原委員の中途でも入園できる体制づくりについては、今

年度に待機児童が発生した要因は、定数の問題では無く保育士が確保できなかったことが要因です。また、定数を決めるには必要保育士数もあるが、園児1人に対する必要面積が決まっている。0～1歳は3.3㎡/人、2歳以上は1.98㎡/人。定数については、面積要件に合わせていないため余裕がある園もあるため、現状に合わせて定数を見直していきたい。

また保育士確保に関しては、町長からもあったとおり近隣の短大等への営業活動やチラシの配布を実施していきます。湯船のこども園については、未来拠点課と連携して事務を進めていきます。

座長（町長）：ただいま、待機児童の解消につきまして、御意見をいただき議論してまいりました。待機児童については、総合計画後期基本計画の目標値はもちろん、ゼロであります。また、私のマニフェストでも「子育てしやすい環境整備を進める」ことは、三本柱の一つです。

保育料の軽減の年齢制限をなくすなど、入園希望者が急増した要因も理解はいたしますが、それも含めて子育て環境を整えること、すなわち待機児童の解消は喫緊の課題であるので、全力をあげて解消に努めるよう強くお願いします。次に会議事項の（2）「小山町の英語教育について」を議題とします。

新学習指導要領において「外国語学習の充実」は、特に話題に上ることが多いと承知している。

「外国語学習の充実」すなわち、小学校における中学年での外国語活動の導入、及び高学年での外国語科目の導入について、準備状況や、想定される課題などについて説明して下さい。

渡邊 こども

育成課専門監：「外国語教育における新学習指導要領の円滑な実施に向けた移行措置（案）」に基づき説明を行った。

座長（町長）：ただいま報告のありました、外国語教育の充実に向けての課題や現在の状況などにつきまして、皆様から御意見等を伺いたい。

米 山 委 員：小学校の英語教育は担任の先生が行うとの説明を聞いたが、指導方法についての研修等が受けられるか。

稲 委 員：小学校の先生は授業をやることに不安を感じ、高学年は受けもちたくない、ということにならないか。どの先生も英語ができるようにしていただきたい。

相 原 委 員：担任の先生が授業をやることになるので、今まで小学校の先生に対する英語の研修はやっているのか。また、やっているとしたら、全ての先生が対象か、どのような先生がやっているのか。

座長（町長）：とても心配されているのは、先生方に自信が無いことや自信の無い先生が教えて良いのかということだと思う。教育長とも色々話したが、先生も実際に外国へ行き英語を勉強するのが良いと思う。これらも含めて検討していただきたい。

教 育 長：学習指導要領は時代に合わせ10年ごとに改定される。今度の新学習指導要領は、道徳の教科化もあるが、英語教育がメインである。時間数が増える。学校では道徳と英語教育について指導計画を作成し、指導内容について日々研修を行っている。小学校の先生は不安を感じており、校長や教頭は6年を担任したくないという先生が増えると困る、という話をしている。自分1人でも英語の授業ができるようにするには、自信を持たせることが重要だと考えている。ネイティブな英語を理解することにより、授業ができるようになると思うので、来年度から仕組みを考えていきたい。

渡 邊 こ ども

育成課専門監：今まで国や県でも教員の英語の指導力を高める目的で、研修が行われました。県では、各地区で中心となる英語の教員を対象として研修を行い、その教員が各学校へ行き指導するという研修が行われましたが、回数は多くありません。町でも平成32年度本格実施に向けて対応しなければならないため、本年度から3年間で全小学校の教員が英語の研修を受けられるように、夏季休暇中の1日だけだがALTの派遣会社を中心に実施しました。教員自身が英語を好きになる・楽しめるような環境づくりが、本来目指すべき研修であると考え、海外への英語研修を実施できれば、効果は絶大だと考えている。

座長（町長）：ただいま、外国語教育の充実につきましてご意見をいただきました。

外国語、すなわち英語教育については、「ALTの増員」や「英語検定試験への補助」など、これまでも小山町の教育でも重点的に取り組んできました。

また、私のマニフェストにも、英語でコミュニケーションがとれる子どもを育成するために「ALTの強化」や「中学生の誰もが、英検とTOEICを受験できるための支援」を掲げています。

今後の外国語教育の充実に向けて、具体的な取り組みなどについて、皆様から御意見等をいただきたい。

湯山委員：ベテランの先生が嫌がる理由は、自分たちが勉強してきたのは受験英語であるため、実践的な会話やコミュニケーションには繋がっていないことが要因だと思われる。会話に慣れるというのもあるが、授業として成立するかが大事だと思う。英語活動と授業は根本的に違う。授業は目的があり、実施したことを評価して評定まで繋げなければならないという視点を持ち、授業を組まなければならない。ALTの増員はありがたいが、あくまでもアシスタントティーチャーなので、担任がメインティーチャーとして授業ができるかという部分を、第一に研修を実施しなければ、英語活動の延長に成りかねないと思う。自信を持って英語の授業を組み立てていける研修を充実させていただきたい。

稲委 員：これからは、グローバルな時代になっていくので、英語ができることにより社会が広がっていくと思う。足柄の地域づくり推進協議会でも、ハロウィンなどを行い、外国の文化も広がっているのも、その国の良さに興味を持つことも大切だと思う。聞くことや話すことが苦手な人が多いと思うので、ヒアリングやスピーキングができる授業づくりをお願いしたい。

相原委員：英語教育が始まるので、周りには塾に入れるという声を聞いた。早めに塾に入れて勉強させたいという保護者が増える可能性があるが、学校の授業で充分英語ができるようになる体制をとっていただきたい。また、既に塾に行っている子ども達もいるが、初めて英語を学ぶ子どももいるので、英語が楽しいと思えるような授業づくりをしていただきたい。中学へ行った時に、英語の授業についていけるレベルになるよう

な授業づくりを工夫して実施してもらいたい。

湯山委員：町長から外国への短期留学の話が出たが、肌で感じる事が大事だと思う。言葉を肌で感じるのも大事だが、言葉から文化を学ばなければならないと思う。文化を肌で感じる事が貴重な財産となるので、実施していただければ、非常に効果があると思う。

座長（町長）：米軍の滝が原の指令から、できることはやらせてもらいたいとの話がある。学校のイベントなどで米軍の方たちと交流ができれば、今までと違う勉強ができると思う。研究をして下さい。

米山委員：今までの日本の英語教育は、書くことと読むことが出来れば大学入試やテストも出来たと思うが、これからは、グローバルな時代なので、コミュニケーションがきちんととれるようにしていただきたい。ALTの先生の増加も重要だと思うのでお願いしたい。

稲委員：先ほど町長が言った、中学生の誰もが、英検とTOEICを受験できるための支援をしているとのことだが、中学生の英語検定の状況を伺いたい。TOEICは国際的で難しいと思うが、中学生も受験しているのか。

渡邊こども

育成課専門監：TOEICは基準が高いので、中学生の受験はありません。英語検定は、今年度から全額補助しているため、3級は113名、準2級は30名が受験し、半数程度が合格しています。昨年度に比べ、受験率は上がっています。

また、授業の構成や指導力に関しては、町主催で夏に実施した研修で、ALTと一緒に授業の組み立てを実施しました。来年度、再来年度も継続していきたい。

塾へ行っているこどもと初めて英語を学ぶこどもの差が出ないようにという点については、学校で対応できるよう努力します。また現在、放課後こども教室で英語教育を実施しているので、これらを活用して差が出ないように取り組んでいきたい。

教 育 長：今まで日本の英語教育は、読めて書ければ良く、大学入試も大丈夫だった。これから小学校5・6年生は、自分の考え

を人に伝えるということも入っている。5領域の力をきちんとつけるためには、授業構想が重要である。先生方は授業構想づくりに不安を感じているが、短期留学では英語教育のためのプログラムもあるようなので、それらも活用して英語の授業ができるプログラムを作ることが大事である。

現在でも小山町は充実した英語教育ができていますが、今後も英語検定の活用や放課後児童教室の検討を行い、さらに充実させていきたい。

座長（町長）：余談だが、来年から小山高校が4クラスから3クラスになるというので、先日、教育長と供に県の教育長に面会し、色々お願いしてきた。定数に関しては仕方ないので、教育長から3クラスの数で4クラスにして、うち1クラスを英語に特化したクラスにしてほしいとお願いした。正式な返事はまだ無いが、今後も教育委員会事務局と県にお願いしていきたい。小山のこどもが英語が出来るよう、また小山高校に憧れるように、教育委員会でも努力して下さい。

皆様の意見にもあったように、これからの小山町の子どもたちは、外国人とも物怖じせずに英語でコミュニケーションが取れるようにしたいと思います。

町としても様々な機会を提供して、子どもたちが国際的な経験を得られる施策を考えていきたいと思います。

5 その他

教 育 長：幼児教育やこども園化を円滑に進めて行くために、統括園長を1名置いて幼児教育を更に充実させたいと考えている。

平成30年度から「ふる里金太郎博士事業」を始める。基礎学力もつけながら、多くの人と関わり合いを持ち、色々な体験を積み重ねてふる里の良さを認識させたい。中身は検討中だが実施していきたい。

座長（町長）：金太郎10ヶ条はとても良いが、授業前に子ども達に唱和させているのか。

教 育 長：給食の時間に1ヶ条を読んだり、昇降口に置いて読むなど色々工夫している。

座長（町長）：「ふる里金太郎博士事業」にも入れたらどうか。小さい時に覚えた事は、大人になっても覚えている。大事なことなの

で推奨して下さい。

相原委員：「ふる里金太郎博士事業」は、生涯学習課から町子連やこども会に案内を出して、こども会活動として参加できるようにしていただきたい。

小野生涯学習

課長：こども会にも声掛けをして参加していただけるようにします。